新富町文化財調査報告書　第 53 集

町 内 遺 跡 25

平成20年度町内遺跡発掘調査概要報告書
（富田村65号墳確認調査）

２００９

宮崎県児湯郡・新富町教育委員会

序

新富町の文化財保護については日頃から深い御理解をいただき厚く御礼申し上げます。

本年度は県指定史跡富田村65号墳の確認調査を実施しました。富田村65号墳はこれまで調査が行われておらず実態が不明でしたが、今回の調査で周溝の存在や須恵器が確認されました。周辺には古墳時代後期の集落遺跡である藤掛第１遺跡が存在することから関連性が指摘されます。

本町はこれら文化財の保護を推進し、学術研究はもとより広く生涯学習の素材として活用していく考えです。

最後になりましたが、調査に際してお世話になった関係各機関の方々に深く感謝を申し上げます。

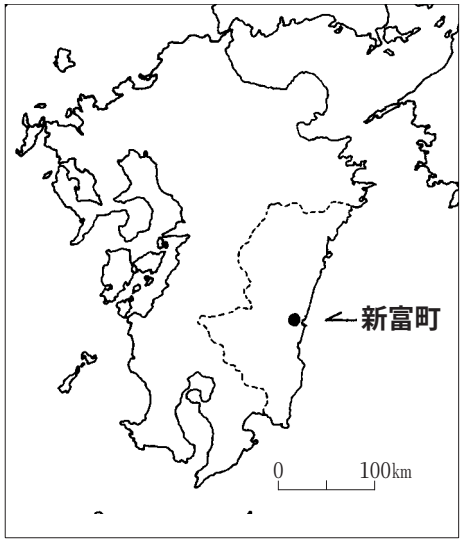
平成21年３月　　新富町教育長　　米　良　郁　子

例　言

１．本書は平成20年度に宮崎県児湯郡新富町教育委員会が実施した緊急発掘調査の概要報告書である。
２．発掘調査は、国庫補助事業「町内遺跡発掘調査等」を適用して行った。
３．各遺跡の調査期間は本文中の表１に明記した。
４．本書で使用した位置図は国土地理院発行の２万５千分の１図を基に作成し、調査範囲図はそれぞれ平板実測にて作成した100分の１測量図をもとに作図した。
５．本書で使用する方位は座標北（座標第Ⅱ系）であり、レベルは海抜絶対高である。
６．遺構実測は、樋渡将太郎がおこなった。
７．遺構・遺物の写真は樋渡が撮影した。
８．整理作業は新富町教育委員会で行い、遺物実測及びトレースは樋渡が行った。
９．本書の執筆・編集は樋渡がおこなった。
10．出土遺物その他の記録はすべて新富町教育委員会生涯学習課に保管してある。

本文目次

Ⅰ．はじめに……１～４ページ
Ⅱ．富田村65号墳の確認調査……５～８ページ
Ⅲ．まとめ……９ページ



新富町位置図

Ⅰ．はじめに

１．新富町の位置と概要

新富町は宮崎県中央部の日向灘沿岸に位置し、県庁所在地である宮崎市から約20㎞北にある。

北西部から南東部にかけては一ツ瀬川が蛇行しつつ東進し、その流域左岸部の沖積平野と標高70～90ｍの台地面にかけて町域を有する。町面積は南北約７㎞、東西約９㎞の約61㎢で、隣接する市町村には西に西都市、北に高鍋町、南に宮崎市がある。

主幹産業は酪農や園芸を中心とした農業で、台地の中心部には航空自衛隊新田原基地があるため「やさいと基地の町」のイメージが強い。人口は約18,500人で、近年の道路交通網の整備にともない本町での宅地開発が活発になっている。

２．新富町の文化財保護

町では昭和43年に文化財保護審議委員会を設置し、町内の文化財保護を推進している。指定文化財は国指定２、県指定２、町指定６があり、内訳は史跡２、天然記念物３、無形民俗３、有形文化財２である。

天然記念物には湯之宮座論梅・春日のイチョウ・アカウミガメの３件が指定されている。それぞれ下草管理や徒長枝剪定などを行っている。アカウミガメは列島的な海岸面積の減少に関係してか毎年上陸頭数が少なくなっており、県下一斉の保護対策が求められている。無形民俗文化財には湯之宮棒踊り、元禄坊主踊り、新田神楽がある。各団体の自助努力により活発な活動が行われており、後継者を含めた総合的な支援が求められる。有形文化財には三納代神社の釈迦如来座像と厳島神社の薬師如来立像があり、ほかに保存状態の良くないものや製作年代の古いものが多い。

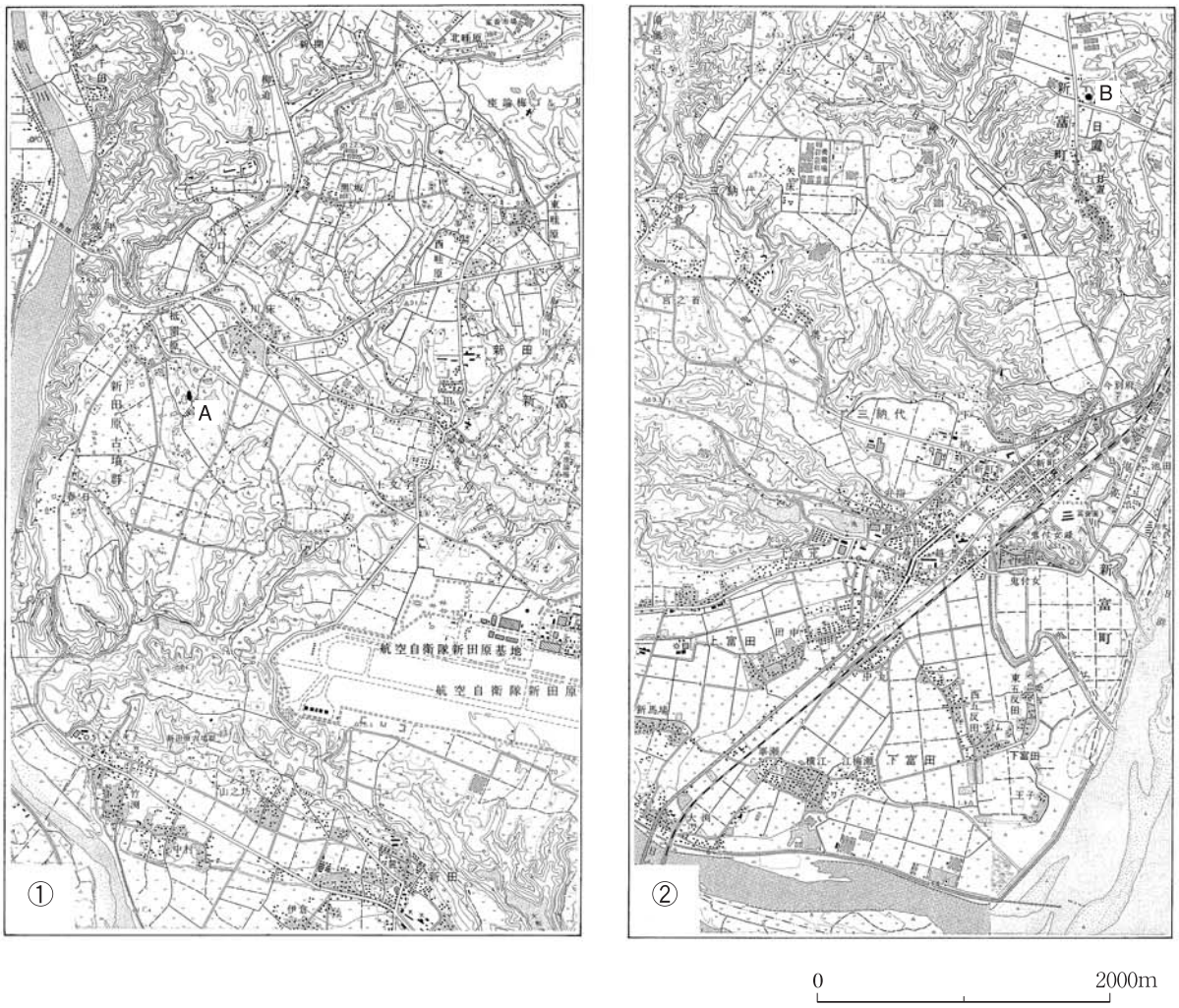
埋蔵文化財は開発行為によって消滅する頻度が高いため、年間を通じて調整・調査を行っている。史跡では国指定新田原古墳群の史跡整備を進行中で、平成９年度から発掘調査を行っている。

また町ですすめる総合文化公園整備事業で既存の文化会館のほかに図書館・歴史資料館を建設する予定があり、この歴史資料館（仮称）を中心に古墳群やその他文化財にガイダンスや案内板を設置し、見学や学習に寄与する予定である。

３．埋蔵文化財の調査

昭和50年代に始まった畑地帯のほ場整備にともない埋蔵文化財発掘調査がかなりの面積にわたって行われてきた。これら大規模調査の成果によって、1982年に行った遺跡詳細分布調査における「周知の遺跡」はその数が飛躍的に多くなった。

また、近年の町内における開発行為によって、周知の埋蔵文化財包蔵地外からの遺跡の発見が相次いだ。このため平成16年度から18年度にかけて「第２次遺跡詳細分布調査」を行い、18年度中にその成果をまとめた「新富町の埋蔵文化財（改訂版)」を発行した。その結果、新富町内の遺跡数は190ヵ所に及ぶことが判明した。



A　百足塚古墳
B　富田村65号墳

第１図　平成20年度に調査した遺跡

【調査体制】

総　　括　米良　郁子（新富町教育委員会　教育長）
　　後藤　博己（同　　生涯学習課　課長）
　　金丸　雅弘（同　　生涯学習課　課長補佐 兼 社会体育係長）
調査・調整　樋渡将太郎（同　　生涯学習課　主任主事：文化財担当）
調 整 補 助　有馬　義人（同　　生涯学習課　係長：文化財担当）
作　業　員　杉尾美千子、甲斐直美、坂本貞夫、溝口敦子、清美貴子、清　久夫、福島将太

表１　平成20年度発掘調査一覧

	遺跡名	所在地	調査期間	申請者	面積	内　容	遺 構 ・ 時 期
1	富田村65号	日置字赤松	9/16～10/31	新富町長	40㎡	史跡確認	中世の蔵骨器
6	新田原58号	新田字東俣	11/4～3/31	新富町長	10000㎡	史跡整備	後期の前方後円墳

４．文化財啓発活動

生涯学習や学社融合の一環として、町内外から文化財についての講演や見学会、勉強会等の要望が寄せられることが多い。町教委ではこれらの要望に応えるため、文化財の普及啓発活動の一環として下記の事業を行った。

表２　新富町の文化財啓発活動

月日	内　　容	講師・担当	対　象	人数
4/23	新田原古墳群の見学（百足塚古墳）	樋渡	富田小６年	60
4/24	新田原古墳群の見学（百足塚古墳）	樋渡	富田小６年	60
5/12	湯之宮座論梅梅ちぎり	有馬	上新田小	40
6/18	百足塚古墳出土埴輪貸し出し（西都原考古博物館）			
6/27	アカウミガメ学習会	樋渡	新田中１年	50
8/10	富田浜クリーン作戦（アカウミガメ関連）	樋渡	一般	200
8/27	富田小文化財愛護少年団活動①「新富町の文化財学習会」	樋渡	団員	11
10/25	富田小文化財愛護少年団活動②「元禄坊主踊り披露」	樋渡	団員	11
11/8	新田原古墳群古墳祭	生涯学習課課員	一般	100
11/8	はにわ復活プロジェクト　はにわづくり	生涯学習課課員	一般	30
3/7	富田小文化財愛護少年団活動③「生目古墳群見学」	樋渡	団員	10
年間	一丁田池ビオトープ作業	有馬	一般	

Ⅱ．富田村古墳の確認調査

1　富田村65号墳の調査

⑴　位置と調査の経緯

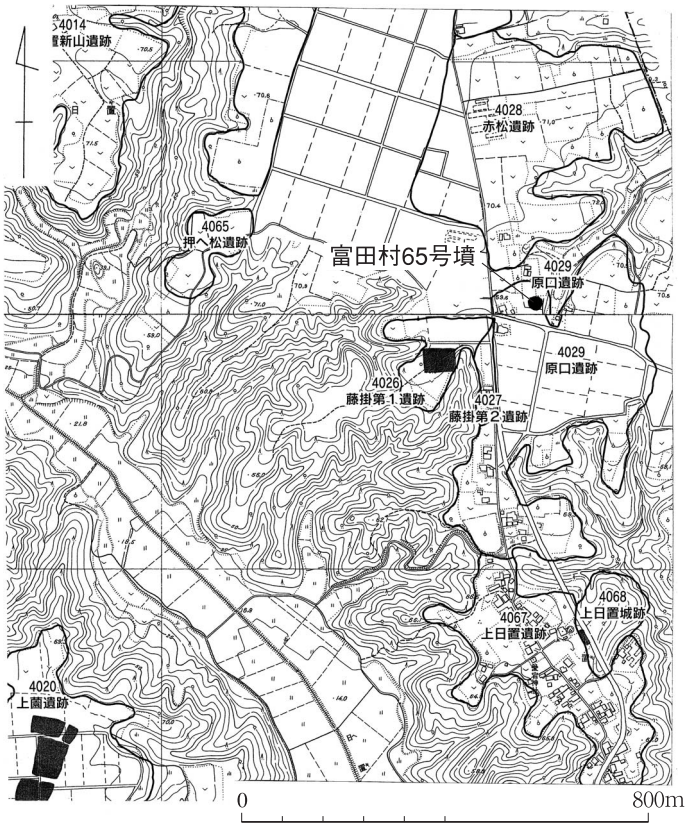
県指定富田村古墳とは、昭和19年に旧富田村に所在した古墳の総称である。その分布は大字上富田・三納代・日置にわたり、実際の古墳のグループを捉えてはいない。近年ではその分布の集中を、富田古墳群・三納代古墳群・日置古墳群と大別し、群の中にはさらに支群や単独墳が認められる。

県内の県指定史跡は戦前に指定措置が行われ、地籍上の管理なものが多い。昭和55年に行われた古墳総点検事業に作業によって所在不明な古墳や指定地番の変更、及び墳丘の崩壊が進んでいる実態が分かっている。

以上のことから、地籍上の指定地番にどのような古墳が所在するのかを確認することは急務といえる。そこで町教育委員会では、平成16年度から「富田村古墳」の所在確認調査を行っている。

今年度は富田村65号墳の確認調査を行った。65号墳は新富町の市街地の北、大字日置字赤松に所在し、西側には日置川が流れ、東側には日向灘を望む標高約70mの台地上に位置する。県道を隔てた西側には、５軒の古墳時代後期の住居址を検出した藤掛第１遺跡が存在し、南側には15～16世紀代の遺物が出土した上日置城がある。また、東に1.4㎞ほど離れた高鍋町域に、上永谷古墳群、下永谷古墳群、永谷横穴墓群が存在するが、65号墳近辺には古墳は存在しない。現地は昭和50年代に行われた土地改良工事のために造成され、古墳周囲は旧地形より低くなっている。古墳本体も削平されているようだ。調査に先立って、土地所有者の了解を得て対象地の樹木の伐採と倒木の処理を行い、水準点の設置を業者に委託した。そして等高線を25㎝で表記した１/100縮尺の測量図を作成し、古墳の現況を確認するとともに、墳丘端部の状況を確認するためのトレンチを設定した。

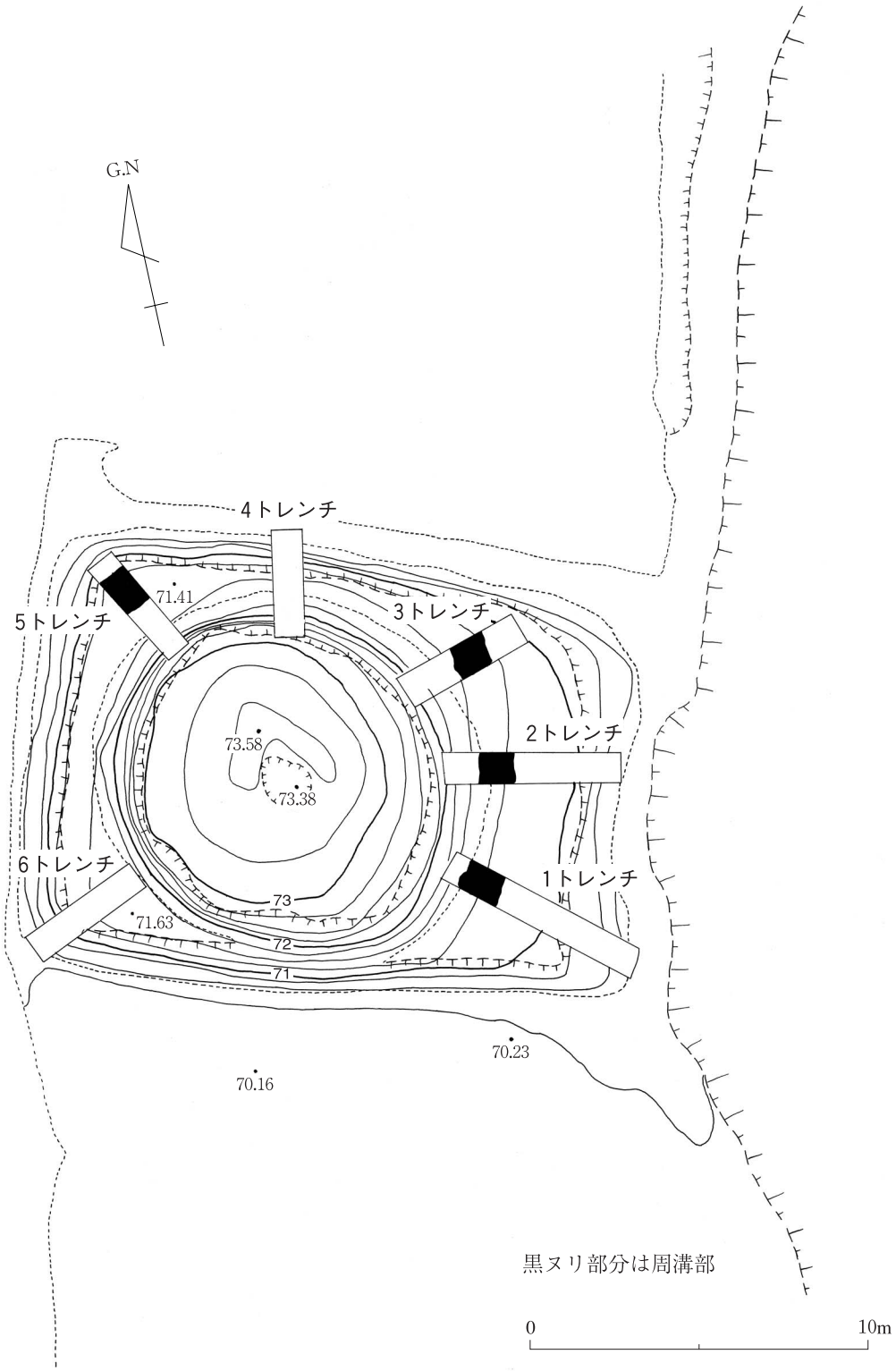
調査は、平成20年９月12日から開始し、10月31日に終了した。



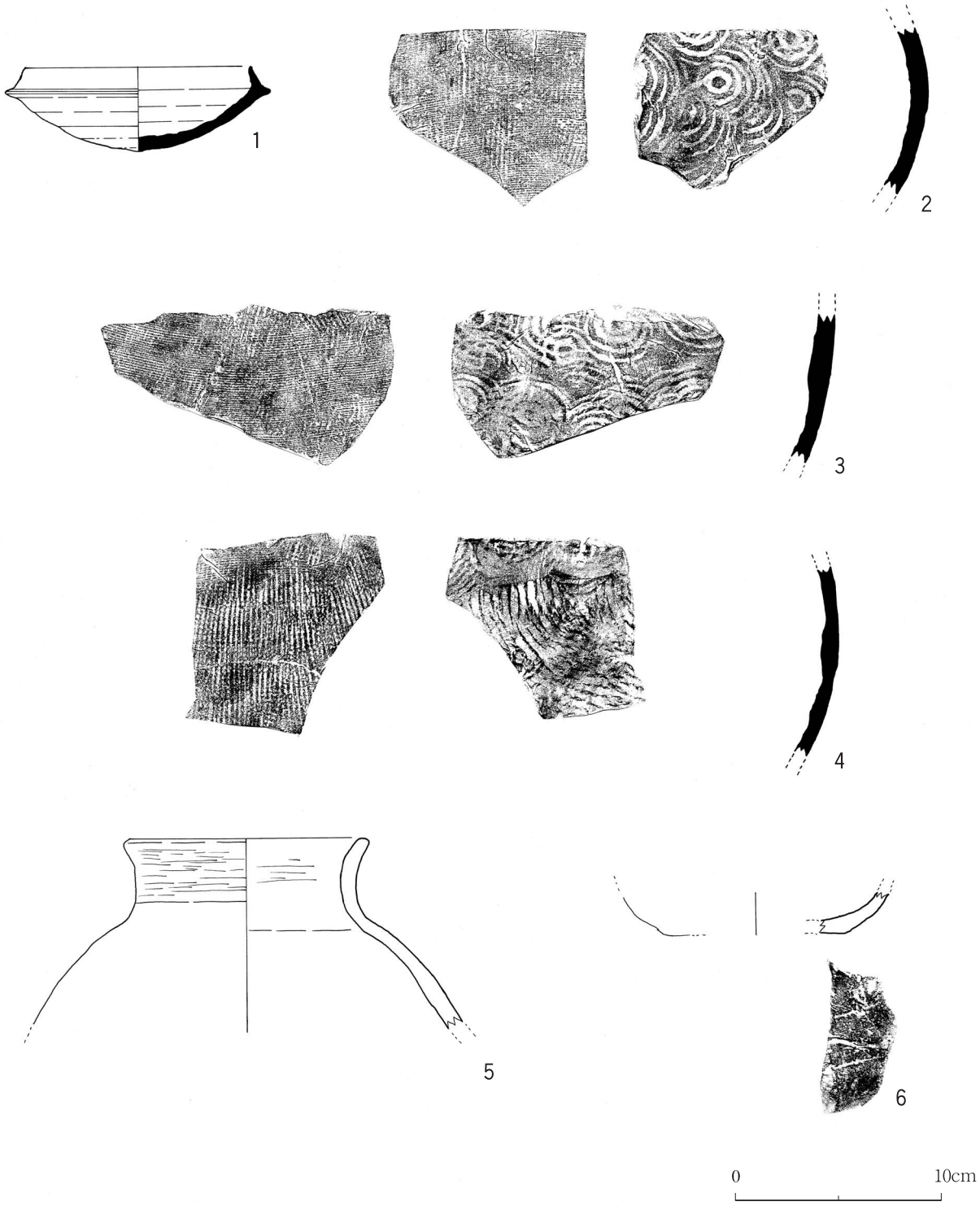
第２図　富田村65号墳周辺図

⑵　測量調査の結果

古墳周辺は、昭和50年代に行われた土地改良工事の影響で、旧地形をとどめていない。また、昭和40年代の地形図でも周辺は既に畑地となっており早くから開発が行われていたようだ。測量調査の結果、古墳はいずれも墳端が削平されている。特に南側では１m以上も掘削されていた。古墳の東側は谷



第３図　富田村65号墳測量図



第４図　富田村65号墳出土遺物

地形となっており、畑地として開発されていないためか残存状態は幾分良好である。ただし墳丘斜面は樹木の倒壊などによる攪乱を受けている。他の３方は畑地となっており現在でも耕作が行われている。墳頂には径50㎝程の窪みがあるが盗掘抗かどうかは判然としない。墳丘表面にはいたるところに瓦片が散乱していることから墳頂部分に以前何らかの建物があった可能性がある。

⑶　トレンチ調査の結果

測量調査では、古墳本体および周辺が既に削平されていたことから、墳丘規模が判然としなかった。このため６ヵ所にトレンチを設定し墳端の確認を行った。この結果１～３トレンチ、５トレンチで周溝を検出することができた。ここで得られたデータから65号墳は径13m、高さ2.5m程の円墳と推測される。４トレンチと６トレンチでは周溝を検出することができなかったが、墳丘盛土の状態を確認することができた。盛土は１m程で大半は地山削りだしで成形されていたようだ。また、葺石はいずれのトレンチからも検出されなかったことから、もともと葺石は施されなかったと思われる。

⑷　出土遺物

２トレンチと３トレンチを中心に須恵器は土師器が出土した。

１は須恵器の坏身である。推定口径11㎝、器高4.１㎝を計る。受部は内傾しながら立ち上がり口縁端部は丸くおさめる。回転ヘラ削りの範囲は全体の２/５程度である。２から４は須恵器片で、いずれも同一個体の可能性が高い。かなりの大型品と推定されるが器種は不明である。外面にはカキ目ののち平行タタキを施し、内面には同心円状のタタキ痕が残る。５は土師器壺の口縁部から胴部片である。口径は11.3㎝で中型品だろう。口縁部は外湾しながら立ち上がり、外面には横方向のナデを施す。胴部外面は不明瞭。６は土師器の壺か甕の底部片である。推定底径8.8㎝の平底で、底部には木の葉痕が残る。

⑸　小結

今回の調査で富田村65号墳の規模や築造時期に関する資料を得ることができた。出土した須恵器坏身はTK209型式併行期に相当すると考えられ、隣接する藤掛第１遺跡で検出された住居址と同時期と推測されることから、何らかの関係があった可能性がある。墳丘規模は後期群集墳でみられる一般的なサイズで、通常この規模の古墳が単独で存在したとは考えにくいが、住民の方の話では、開発行為等によって破壊された古墳はないとのことだった。

Ⅲ. まとめ

今年度は富田村65号墳の確認を行った。富田村古墳は分布範囲が広く、また多くが山林に立地しているため、古墳群の現状が判然としていない。町教育委員会では平成16年度から確認調査を行い、多くの古墳が所在不明となったり、墳丘が削平されている事実が判明している。また、指定地番の齟齬もかなり認められている。今後も継続して調査を行い、古墳群の現状把握に努めて、保護のための基礎資料としたい。

1．富田村65号墳

2．調査状況

3．1トレンチ周溝検出

図版写真二　富田村65号墳

１．１トレンチ周溝完掘

２．２トレンチ周溝検出

３．２トレンチ周溝内遺物
出土状況

１．３トレンチ周溝検出

２．３トレンチ周溝内遺物
出土状況

３．３トレンチ周溝完掘

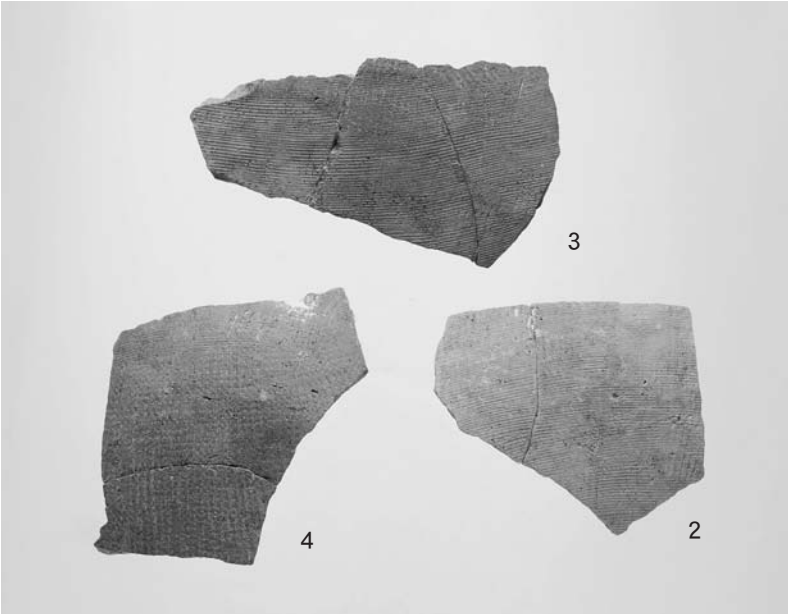
図版写真四　富田村65号墳

1．4トレンチ完掘状況

2．5トレンチ周溝検出

3．6トレンチ完掘

1


3
4
2

5

6

報　告　書　抄　録

ふりがな	ちょうないいせき
書名	町内遺跡25
副書名	平成20年度 町内遺跡発掘調査概要報告書
巻次	25
シリーズ名	新富町文化財調査報告書
シリーズ番号	第53集
編著者名	樋渡将太郎
編集機関	新富町教育委員会
所在地	宮崎県児湯郡新富町大字上富田7491番地
発行年月日	2009年３月31日

ふりがな 所収遺跡・地区名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	調査期間	調査面積	調査原因
富田村(とんだむら)65古墳	大字日置字赤松(おおあざひおきあざあかまつ)5720-2	47	―	080916～081031	40㎡	史跡調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
富田村65古墳	古墳	古墳	円墳	須恵器・土師器	円墳周溝

新富町文化財調査報告書　第53集

町　内　遺　跡　25

発行年月日　２００９年３月
発　　行　宮崎県新富町教育委員会
印　　刷　㈱印刷センタークロダ